



タンザニア

BOP層実態調査レポート

- 調査実施日: 2013年2月～3月
- 調査場所: ダルエスサラーム
- 訪問場所: TCRA (Tanzania Communications Regulatory Authority)、TBC (国営放送局)、IPPメディアグループ、SAHARAメディアグループ、イララ・テメケ地区 (BOP層聞き取り調査)

放送に関わる規制

通信事業者は国際電気通信連合の勧告により、すべての通信は特定され、定期的に公表しなくてはならない。言語は特別な場合を除きスワヒリ語もしくは英語で放送する。描写について、人種・民族・起源・色・宗教・性別・年齢・障害による差別は避けなくてはならない。性描写については分別のある言葉もしくは視覚的な参照は可能だが詳細の描写については禁止されている。暴力描写についても不当暴力や残虐行為はニュースなどの特別な場合を除いては適切な判断が求められる、特に子供・女性を対象としたものは基本禁止である。

番組は年齢ごとにクラス分けされ制限がかけられている。

FMA	家族で見るとに適している。
PGA	親の監視のもと視聴することができる。性・暴力描写、言葉遣いなどが制限される。
16+	16歳以上が視聴可能。
18+	18歳以上が視聴可能。 それぞれ適度な性・暴力描写、粗暴な言葉遣いなどが使用できる。促進しない程度の薬物の描写も可能。放送できる時間帯は21時から5時半まで。

その他、子供のためになる番組を平日30分以上、休・祭日は1時間以上放送する。CMIは30分番組中最大5分までしか放送できないなどの決まりもある。



各種媒体

テレビ

テレビはかなり普及してきている。サムソンの薄型テレビが約4万円から購入することができ、アジアから輸入している中古テレビであれば約5千円から買うことができる。BOP層にとって手の届かない金額ではなく、家電・家具の購入優先順位は、ベッドの次がテレビという人も多く、収入が少なくても仕事をしていればテレビを所有している人は多い。

テレビ局

26社あるが、全国ネットはTBC、ITV、STAR TV、EATV、CHANNEL TENの5社である。

テレビ局	視聴率
TBC ONE (国営放送)	30%
ITV (IPPメディアグループ)	25%
STAR TV (SAHARAメディアグループ)	16%
EATV (IPPメディアグループ)	7%
CHANNEL TEN	5%



食堂のテレビ

各放送局は、地方の州局やコミュニティ、企業ごとにそれぞれの特色に特化した放送局となっている。例えば、STAR TVはビクトリア湖畔の地方都市ムワンザを拠点とし、その地方で最も影響力のあるメディアとなっている。(視聴率の出所はSynovate Report 2011)

デジタル放送



タンザニアでも放送のデジタル化が進められている。2011年よりデジタル移行のためのデコーダ(デジタル変換器)の購入が勧められている。2012年12月末をもって、ダルエスサラームなどの主要7都市がデジタル放送に切り替えられたが、準備・告知期間の不足などから完全移行には程遠く、各地で様々な問題が起きている。デコーダの購入・取り付け・登録に約5千円の費用がかかり、この費用を捻出できない人たち、デコーダの

購入資金はあるがデコーダが地方まで行き届いておらずに入手できない人たちから不満が出ている。2015年末までにデジタル化へ完全移行する予定である。

初期費用を払うことができる層はデジタル放送のプロバイダーと契約し、初期費用約5千円(デコーダ込)、毎月約500円(約10チャンネル)でCNNやBBCといった世界的なニュース番組を見ることができ、その他スポーツチャンネルやドラマ・映画チャンネルも選べ、その契約会社によって中国系・アラブ系・インド系のバラエティ・アニメ番組も選ぶことができる。以前の衛星放送に比べ安価に海外のコンテンツを豊富に視聴できるようになった。



テレビのレコーダー



ラジオ



ラジオを聴く人たち

テレビが普及してきてはいるが、ラジオから情報を得ている人も多い。通勤時の乗り合いバスの中は常にラジオがかかっており、重要な情報源となっている。

ラジオ局

登録ラジオ局はタンザニア全土で86社ある。TBC TAIFA、TBC FM、RADIO ONE、RFAは全国に放送している。国家情勢を常に放送しているTBC TAIFA、TBC FMが全国で聞かれている以外は地域ごとに聴取率の高い放送局は違う。ダルエス近郊の首都圏であればTIMES FM、CLOUDS FMといった新興ラジオ局が聴取率20%前後と強く、北部アルーシャ圏ではRADIO ONEが聴取率26%あり、ビクトリア湖畔のムワンザ圏ではRFAが聴取率33%で圧倒的に人気がある。それ以外の局は全国をカバーしておらず、それぞれの地域でそれぞれの局の特徴を活かした放送をしている。(聴取率の出所はSynovate Report 2011)

新聞

テレビもインターネットもないBOP層は路上で販売している新聞の見出しを見るか、職場などに置いてある新聞を回し読みして情報を得ている。テレビを所有している者も朝、職場では新聞を広げている。英字新聞とスワヒリ語新聞があるが、スワヒリ語新聞は政治・芸能・スポーツともに多くの人が読んでいる。

英字新聞

THE CITIZEN (MWANANCHI COMMUNICATIONS)、THE GUARDIAN (IPPメディアグループ)、DAILY NEWS (TSN) が最も影響力があり広く読まれている。購読者は政府関係者・ビジネスマンなどでBOP層はほとんど読んでいない。英語新聞上位3社の平均発行部数は12,000部程度である。

スワヒリ語新聞

MWANANCHI (MWANANCHI COMMUNICATIONS)、NIPASHE (IPPメディアグループ)、TANZANIA DAIMAが人気あり広く読まれている。スワヒリ語スポーツ紙MWANASPOTI、SPOTISTAREHE、CHAMPIONはBOP層の多くも目を通していて、上位3社の平均発行部数は英語新聞の3倍以上ある。その他、スワヒリ語タブロイド紙も複数あり、庶民の読み物として一定の人気がある。



路上での新聞販売

口コミ

マスメディアが発達してきてテレビ・ラジオ・新聞・インターネットなど様々な媒体を通して情報が発信され、それぞれの媒体から情報を得ることができる。しかしBOP層が情報を得る一番のソースは友人・知人・親族・同僚などの情報を得た人からの口コミが一番多い。

情報を得ることができない、情報の信ぴょう性に問題がある、情報があっても受け取る側に情報を受け取る準備ができていない、情報を精査できないなど、マスメディアを通して入ってくる情報を直接活用することができていないところがある。そのため、口コミにより信用を置いている、もしくは口コミに頼ることになるところがある。



【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。